

消防情勢



1 豊橋市のあらし

豊橋市は愛知県の東南部に位置し、東は弓張山地を境に静岡県と接し、西には国定公園に指定される三河湾と国際貿易港である「三河港」を擁し、南は太平洋に面するなど豊かな自然と温暖な気候に恵まれています。

この地方は、かつて穂国と呼ばれ大化の改新のころ三河国に統合され鎌倉時代に豊川河口に橋が築かれ今橋と名付けられました。その後、吉田に改められ明治2年には吉田藩は豊橋藩に、そして明治39年8月1日県下2番目の市として産声を上げました。

戦前戦中には蚕糸の町、軍都として知られるようになり、戦後においては、市民のたゆまぬ努力と恵まれた風土をバックに多年に懸案であった豊川用水の完成をはじめ、産業基盤の強化、生活環境の整備充実を着々と進め、東三河地域の中心都市、さらには、三遠南信地域の拠点都市として躍進を続け、平成11年4月中核市に移行しました。

令和8年8月には市制施行120周年を迎える節目の年となります。今後も引き続き豊橋市の魅力を発信していきます。

また、豊橋市は「東三河地域」の中心都市、さらには「三遠南信地域」の拠点都市として、周辺市町村との連携・交流を深め、一体的な発展を目指した広域行政の推進に取り組んでいます。

(令和8. 4. 1)

人 口	総 数	男	女	世帯数	面積
	361,979人	181,400人	180,579人	167,270 世帯	262.05km ²



2 豊橋市消防のあゆみ

豊橋市の消防の歴史は、徳川末期11代将軍家斉の天明3年（1783年）時の城主松平伊豆守信明が町火消組を4か所に設置したのがこの地方における消防組の初めである。以来200年余、幾多の変遷及び制度上に種々の変革はあったが、大別すると次の6期に分けられます。

1. 町火消時代	天明3年	～	明治維新
2. 消防中絶時代	明治維新	～	明治15年
3. 私設消防時代	明治15年	～	明治32年
4. 警察消防時代	明治32年	～	明治42年
5. 公設消防時代	明治42年	～	昭和23年
6. 自治体消防時代	昭和23年以降		

昭和8年9月16日	豊橋常備消防組発足 車庫、事務所（高さ33メートル望楼付）昭和8年7月30日落成 消防ポンプ自動車33年式レオ1台 組頭1・小頭1・副小頭1・消防手13 合計16人
昭和14年4月1日	豊橋警防団常備消防部と改称 定員 部長1・副部長2・団員23 合計26人
昭和15年5月1日	羽根井出張所開設（市内花田町西郷27）
昭和19年11月1日	豊橋常備警防団と改称
昭和22年10月30日	豊橋常備消防所と改称
昭和23年3月7日	豊橋市消防本部及び豊橋市消防署設置 自治体消防として発足
昭和23年9月14日	消防本部庁舎落成 本部、1署、1出張所、消防職員37人、消防ポンプ自動車4台
昭和25年1月22日	東部出張所開設（市内瓦町84）
昭和25年5月2日	南部出張所開設（市内富本町国隠67）高さ24メートル望楼付
昭和29年5月1日	豊橋市防火委員会結成（現在の豊橋市防火協会）
昭和30年3月7日	タンク車寄贈、日産30年式1台（損保号）
昭和31年2月10日	消防無線設置（中短波基地局1基・移動局1基購入）
昭和31年8月8日	二川出張所開設（市内大岩町東郷内263）高さ21メートル望楼付
昭和32年7月8日	救急車寄贈、ウイリス32年式1台（防火委員会号）救急業務開始
昭和33年4月1日	本部、1署、4出張所、消防ポンプ車11台、救急車1台、指令車1台、職員103人

昭和35年11月 7 日	行政無線設置（超短波陸上無線電話）固定局 1 基
昭和36年 9 月21日	救急車寄贈（豊橋市名誉市民、神野三郎氏）
昭和37年 9 月12日	消防無線超短波に変更、基地局 1 基、移動局10基
昭和39年10月20日	豊橋市消防団組織改善協議会設置
昭和39年11月11日	屈折はしご付消防ポンプ自動車購入 1 台
昭和40年10月21日	化学車購入 1 台
昭和41年 8 月 8 日	救急車寄贈（住友号） 1 台
昭和41年 9 月 1 日	石巻分遣所開設（市内石巻本町字市場65の1）
昭和42年 1 月20日	救急車購入A級 1 台
昭和42年 4 月 1 日	救急車寄贈（豊橋東ライオンズ号）A級 1 台
昭和43年 1 月29日	消防本部、署庁舎増改築移転
昭和43年 4 月 1 日	本部、1 署、4 出張所、1 分遣所、消防車13台、救急車 3 台、作業車 1 台、 広報車 1 台、職員141人 消防監視用テレビジョン装置（市民小ホール 高さ33m）運用開始、 本署望楼廃止
昭和43年 5 月 4 日	消防署新車庫完成（鉄骨造平家建）
昭和43年10月 1 日	前芝分遣所開設（市内日色野町字新切31の3） 豊橋市・小坂井町消防相互応援協定締結（昭和57年 9 月30日廃止）
昭和43年10月30日	32mはしご付消防ポンプ自動車購入 1 台
昭和43年11月11日	化学車寄贈、トヨタ43年式 1 台（火災保険号）
昭和44年 1 月11日	消防音楽隊結成
昭和44年 2 月 7 日	出動警報装置本署に設置（豊橋東ライオンズクラブ） 寄贈 1 基（南部44年、前芝44年、大清水45年、二川47年、西部50年に設置）
昭和44年 4 月 1 日	機構改革 本部 2 課（総務・予防）、4 係（庶務・消防・予防・指導） 1 署 2 係（警備第 1・第 2）、2 出張所、4 分遣所、職員146人
昭和44年 6 月 2 日	豊橋市消防審議会設置
昭和44年10月 1 日	大清水分遣所開設（市内大清水町字姫田 5 の 3） 南部出張所消防監視用テレビジョン装置（高さ24m）運用開始、南部望楼廃止
昭和45年 3 月22日	救急車寄贈（豊橋南ライオンズ号）B級 1 台
昭和45年 4 月 1 日	前芝分遣所を出張所に昇格
昭和45年10月 1 日	二川出張所移転（市内大岩町東郷内262から市内二川町字道賢田46の3へ） （二川出張所建設用地1, 107. 04㎡寄贈 神鋼電機株式会社（現ソフオニテクノロジー株式会社）） 消防監視用テレビジョン装置付（高さ23m）、二川望楼廃止
昭和46年 6 月10日	指揮車購入 1 台
昭和46年 8 月23日	救助工作車購入 1 台
昭和46年12月20日	消防救急指令装置（B級開設）

昭和47年 4 月29日	本署望楼撤去
昭和47年 9 月14日	大型水そう車（10 t）購入 1 台
昭和47年10月11日	3 B型救急車購入 1 台
昭和47年10月28日	タンク車購入 1 台
昭和48年 4 月 1 日	東部分遣所を出張所に昇格
昭和48年 8 月27日	大型水そう車（10 t）購入 1 台
昭和49年 3 月20日	3 B型救急車寄贈（損保号）
昭和49年 3 月22日	化学補給車寄贈（豊橋西武号）
昭和49年 4 月 1 日	機構改革 予防課予防係・指導係を、予防課予防係・建築物係・危険物係 とした 職員200名
昭和49年 6 月 3 日	指揮車（フォルクスワーゲン）寄贈（富士自動車）
昭和49年 8 月31日	水そう付消防ポンプ自動車購入 2 台
昭和49年10月11日	3 B型救急車購入 1 台
昭和49年12月 9 日	豊橋ハイヤー協会と災害情報連絡協定締結
昭和50年 4 月 1 日	5 名増員 職員205名
昭和50年10月 7 日	水そう付消防ポンプ自動車購入 1 台
昭和50年11月26日	西部分遣所移転（市内羽根井本町131から市内東脇 1 丁目 1 の 8 へ）
昭和51年 4 月 1 日	機構改革 総務課 庶務係・消防係を、総務課 人事教養係・庶務係・消防 係に、消防署警備第一係・警備第二係を通信指令第一係・通信指令第二係・ 警備第一係・警備第二係に、西部分遣所を西部出張所に昇格 3 名増員 職員208名
昭和51年10月18日	水そう付消防ポンプ自動車・2 B型救急車各 1 台購入
昭和52年 3 月29日	石巻分遣所移転（市内石巻本町字市場65の 1 から市内石巻本町字市場111へ）
昭和52年 4 月 1 日	機構改革 消防署に救助救急第一・第二係を新設、西部出張所を分署に昇格、 警備第一・第二係とした 7 名増員 職員215名
昭和52年 5 月10日	2 B型救急車寄贈（東京海上火災）
昭和52年10月27日	水そう付消防ポンプ自動車購入 1 台
昭和53年 4 月 1 日	機構改革 消防本部総務課に装備係を、消防署に通信司令を新設、庶務係を 設け、東部出張所移転（市内瓦町84から市内岩田町字西郷中 3 へ）分署に 昇格、警備第一係・警備第二係・東分署二川出張所・東分署石巻分遣所、南 部出張所を分署に昇格、警備第一係・警備第二係・南分署大清水分遣所・西 分署前芝出張所 11名増員 職員226名
昭和53年 7 月10日	2 B型救急車寄贈（豊川信用金庫）
昭和53年10月 6 日	水そう付消防ポンプ自動車購入 1 台
昭和53年11月10日	大型水そう車（10 t）購入 1 台
昭和54年 3 月10日	防災資機材及び搬送車配置（日本消防協会）

昭和54年 4 月 1 日	10名増員 職員236名
昭和54年 4 月17日	豊橋市消防団等組織改善協議会設置
昭和54年 7 月 3 日	3 B型救急車寄贈（ジャスコ）
昭和54年10月 8 日	化学車・水そう付消防ポンプ自動車各 1 台購入
昭和54年12月27日	水そう付消防ポンプ自動車寄贈（日本損害保険協会）
昭和55年 3 月22日	南分署新築移転（市内富本町字国隠67から市内曙町字南松原118へ）
昭和55年 4 月 1 日	機構改革 消防本部予防課を予防防災課とし防災係を、消防署を中消防署とし、予防係を新設、東分署、前芝出張所、石巻分遣所、南分署を南消防署に昇格、予防係・救助救急第一・第二係を新設、西分署、二川出張所、大清水分遣所とした 14名増員 職員250名
昭和55年 4 月21日	査察車購入 2 台
昭和55年 8 月13日	応急救護車購入 1 台
昭和55年10月 1 日	消防本部（総務課、予防防災課）市役所本館 1 階に移転
昭和55年10月 3 日	化学車、大型水そう車、ポンプ車、防災業務車 各 1 台購入
昭和56年 1 月27日	消防広報車寄贈（加藤正義氏）
昭和56年 4 月 1 日	通信司令を通信指令に改め通信指令長を配置 11名増員 職員261名
昭和56年 9 月28日	防災指導車寄贈（守田屋塗料）
昭和56年12月26日	救助工作車購入 1 台
昭和57年 4 月 1 日	6 名増員 職員267名
昭和57年11月12日	消防広報車寄贈（愛知県共済生活協同組合）
昭和58年 4 月 1 日	機構改革 中消防署石巻分遣所を中消防署石巻出張所、南消防署大清水分遣所を南消防署大清水出張所に昇格 4 名増員 職員271名
昭和58年 6 月25日	総合気象観測装置 運用開始
昭和58年 7 月 1 日	前芝出張所から大清水出張所へ救急車配置替え
昭和58年 8 月19日	小型動力ポンプ付積載車寄贈（日本消防協会）
昭和58年12月22日	46mはしご付消防ポンプ自動車購入 1 台
昭和59年 4 月 1 日	2 名増員 職員273名
昭和59年 8 月23日	電源照明車寄贈（日本消防協会）
昭和59年12月12日	救助工作車購入 1 台
昭和60年 4 月 1 日	1 名増員 職員274名
昭和60年10月 7 日	ポンプ車（CD－1）購入 1 台
昭和60年11月 7 日	消防広報車配置（日本消防協会） 1 台
昭和60年11月27日	消防広報車寄贈（ロータリークラブ） 1 台

昭和61年2月12日	豊橋市防災行政無線システム 運用開始（第一次計画）
昭和61年3月4日	3 B型救急車購入 1台
昭和61年9月3日	指揮車購入 1台
昭和61年10月9日	豊橋市防災行政無線システム 第二次計画完了
昭和61年10月28日	化学車購入 1台
昭和61年12月18日	3 B型救急車寄贈（豊橋西ライオンズクラブ） 1台
昭和62年1月17日	消防広報車寄贈（前田義夫氏） 1台
昭和62年2月26日	3 B型救急車購入 1台
昭和62年3月9日	2 B型救急車寄贈（愛知県共済生活共同組合） 1台
昭和62年8月31日	指揮車購入 1台
昭和62年10月20日	タンク車購入 1台
昭和63年1月28日	消防緊急情報システム整備
昭和63年6月18日	査察車購入 1台
昭和63年7月28日	資機材搬送車購入 1台
昭和63年11月30日	大型水そう車購入 1台
平成元年1月30日	30mはしご付消防ポンプ自動車購入 1台
平成元年2月20日	ポンプ車（CD-1）購入 1台
平成元年2月22日	消防広報車寄贈（愛知県共済生活共同組合） 1台
平成元年3月17日	2 B型救急車寄贈（名豊ビル） 1台
平成元年4月1日	2名増員 職員276名
平成元年7月22日	査察車購入 2台
平成元年12月10日	資機材搬送車購入 1台
平成2年3月11日	2 B型救急車購入 1台
平成2年3月20日	南消防署大清水出張所増改築
平成2年3月21日	タンク車購入 1台
平成2年3月27日	大型水そう車購入 1台
平成2年4月1日	2名増員 職員278名
平成2年6月15日	査察車購入 2台
平成2年12月17日	起震車（グラット号）購入 1台
平成2年12月18日	タンク車購入 1台
平成3年1月10日	タンク車購入 1台
平成3年4月1日	2名増員 職員280名
平成3年12月12日	タンク車購入 2台
平成4年2月6日	2 B型救急車寄贈（豊橋西ライオンズクラブ） 1台
平成4年4月1日	1名増員 職員281名
平成4年5月7日	豊橋市消防団等組織改善協議会設置

平成5年2月22日	消防本部（総務課、予防防災課）市役所仮庁舎1階に移転
平成5年3月5日	高規格救急車購入 1台
平成5年3月8日	救急救命士業務開始
平成5年3月27日	中消防署新築移転（市内八町通二丁目22から市内東松山町23へ）
平成5年4月1日	機構改革 中消防署通信指令室を消防本部通信指令課とし課に昇格、予防防災課に主幹を配置 8名増員 職員289名
平成6年1月20日	20m屈折はしご付消防ポンプ自動車購入 1台
平成6年4月1日	消防本部総務課に主幹、消防署に副署長を配置 7名増員 職員296名
平成7年1月1日	中消防署石巻出張所新築移転（市内石巻本町字野添136）
平成7年2月16日	2B型救急車購入 1台
平成7年3月15日	高規格救急車購入 1台
平成7年4月1日	防災広報レディ（嘱託員）採用 4名増員 職員300名
平成7年9月5日	緊急消防援助隊登録
平成7年10月19日	化学車購入 1台
平成7年11月1日	消防全国共通波整備（基地局）
平成7年12月18日	高規格救急車購入 1台
平成8年3月6日	2B型救急車購入 1台
平成8年4月1日	消防本部通信指令課の勤務形態を3部制に移行 3名増員 職員303名
平成8年4月23日	消防広報車寄贈（宝和工業） 1台
平成8年7月8日	三遠南信災害時相互応援協定締結（愛知、静岡、長野、59市町村）
平成8年7月22日	消防本部（総務課、予防防災課）市役所西館5階に移転
平成8年10月11日	タンク車寄贈（日本損害保険協会） 1台
平成8年11月5日	タンク車購入 1台
平成8年11月29日	大型水そう車購入 1台
平成8年12月16日	消防県内共通波固定間通信免許認可（蒲郡市）
平成9年2月10日	高規格救急車寄贈（豊橋信用金庫） 1台
平成9年4月1日	南消防署の勤務形態を3部制に移行 5名増員 職員308名
平成9年6月18日	消防広報車購入 1台
平成9年12月4日	救助工作車Ⅲ型購入 1台

平成 9 年12月16日	消防県内共通波固定間通信免許許可 (岡崎市、西尾市、豊川市、新城市、田原町、渥美町)
平成 9 年12月24日	尼崎市と豊橋市との間の災害時相互応援に関する協定締結
平成10年 2 月18日	横須賀市と豊橋市との間の災害時相互応援に関する協定締結
平成10年 2 月20日	愛知県下携帯電話等による119番通報受信システム運用開始
平成10年 4 月 1 日	中消防署の勤務形態を 3 部制に移行 4 名増員 職員312名
平成10年 7 月14日	署活動波無線免許認可
平成11年 1 月12日	大型水そう車購入 1 台
平成11年 1 月20日	タンク車購入 1 台
平成11年 3 月30日	豊橋タクシー協会と災害時の情報提供に関する協定締結
平成11年 3 月31日	昭和49年12月 9 日に締結した豊橋ハイヤー協会との災害情報連絡協定を廃止
平成11年 4 月 1 日	機構改革 消防本部に防災対策室を新設(室長は予防課長が兼務、主幹を配置)し防災係を、消防本部予防防災課を予防課に改称し予防係、建築物係、危険物係とした 市長部局との人事交流開始(一般職員)
平成11年 5 月19日	中核市災害相互応援協定締結
平成11年 8 月 2 日	消防協力隊の災害応急活動に関する協定締結(市内28社)
平成11年12月16日	ポンプ車購入 1 台
平成12年 1 月28日	化学車購入 1 台
平成12年 4 月 1 日	中消防署、南消防署の係制を廃止し、グループ制を導入、消防副士長制度開始 1 名減員 職員311名
平成12年 8 月10日	高規格救急車購入 1 台
平成12年11月22日	救助工作車Ⅱ型購入 1 台
平成13年 4 月 1 日	初の女性消防吏員採用 2 名 消防本部防災対策室長を独立、消防本部予防課主幹を廃止 6 名増員 職員317名
平成13年 8 月20日	高規格救急車購入 2 台
平成13年 8 月23日	前芝出張所 救急車運用開始
平成13年10月22日	46mはしご付消防ポンプ自動車購入 1 台
平成13年10月26日	指揮車購入 1 台
平成14年 4 月 1 日	機構改革 消防本部防災対策室を防災対策課とし、防災係を廃止して企画推進係・防災指導係を新設し、市役所西館 5 階から 4 階に移転 女性事務職員を 2 名から 1 名に減員 5 名増員 職員322名

平成14年10月29日	高規格救急車購入 1台
平成15年1月22日	水槽付消防ポンプ自動車購入 1台
平成15年3月4日	広報車寄贈（日本消防協会） 1台
平成15年3月26日	消防ポンプ自動車購入 1台
平成15年4月1日	機構改革 消防本部消防指揮室（グループ制）を中消防署庁舎内に新設（室長は中消防署長が兼務）、予防課 予防係・建築物係・危険物係を廃止し、予防グループを新設（グループ制） 消防副士長制度を廃止 6名増員 職員328名
平成15年8月21日	多目的搬送車購入 1台
平成15年9月18日	高規格救急車購入 1台 （災害対応）高規格救急車購入 1台
平成15年10月10日	小型動力ポンプ付き大型水槽車購入 1台
平成15年10月16日	消防ポンプ自動車購入 1台
平成15年11月13日	化学消防ポンプ自動車購入 1台
平成15年11月19日	電源車購入 1台
平成15年11月27日	小型動力ポンプ付き積載車購入 1台
平成15年12月18日	広報車寄贈（中部瓦斯株式会社） 1台 資機材搬送車購入 1台
平成16年4月1日	機構改革 消防本部総務課 人事教養係・消防係を廃止し、消防グループを新設（グループ制）、装備係・庶務係を廃止し、管理グループを新設（グループ制）、防災対策課 企画推進係・防災指導係を廃止し、防災グループを新設（グループ制） 2名増員 職員330名
平成16年6月22日	査察車購入 1台
平成16年8月3日	広報車寄贈（豊橋市防火協会） 1台
平成16年9月17日	広報車購入 1台
平成16年10月1日	豊橋市及び豊川市消防通信指令事務協議会設置 （豊川市と消防通信指令に関する事務の共同処理開始）
平成16年12月15日	起震車購入 1台
平成17年1月25日	高規格救急車購入 2台
平成17年1月28日	防災業務車購入 1台
平成17年3月29日	小型動力ポンプ付き水槽車（Ⅰ型）購入 1台
平成17年4月1日	職員327名
平成17年10月25日	広報車購入 1台
平成17年11月11日	防災業務車購入 1台

平成17年12月 8 日	災害対策多目的搬送車購入 1台
平成17年12月15日	高規格救急車購入 1 台
平成18年 1 月20日	多目的車購入 1 台
平成18年 3 月23日	小型動力ポンプ付水槽車購入 1 台
平成18年 4 月 1 日	機構改革 消防本部総務課 消防グループを廃止し、総務グループを新設 消防本部通信指令課・消防指揮室を統合し消防救急課とし、通信指令グループを通信グループに変更し、消防グループを新設 消防署に救命指導官を配置 1 名減員 職員326名
平成18年12月 1 日	水槽付消防ポンプ自動車購入（3 t） 2 台
平成19年 3 月 9 日	高規格救急車購入 1 台
平成19年 4 月 1 日	機構改革 消防署副署長を廃止 職員326名
平成19年 7 月17日	豊橋市消防団組織等改善協議会設置
平成19年12月 3 日	消防ポンプ自動車購入 2 台
平成19年12月 6 日	水槽付消防ポンプ自動車購入（3 t） 1 台
平成20年 2 月 7 日	救急普及啓発広報車寄贈（財団法人救急振興財団） 1 台
平成20年 4 月 1 日	4 名増員 職員330名 中消防署に高度救助隊配置 豊橋市、豊川市及び新城市消防通信指令事務協議会設置 （新城市を加え、3 市による消防通信指令に関する事務の共同処理開始）
平成20年12月25日	30mはしご付消防自動車購入 1 台
平成21年 4 月 1 日	1 名増員 職員331名
平成21年11月 6 日	高規格救急車購入 1 台
平成22年 4 月 1 日	機構改革 消防署に救急専門員（補佐級）を配置 1 名減員 職員330名 豊橋市、豊川市、蒲郡市及び新城市消防通信指令事務協議会設置 （蒲郡市を加え、4 市による消防通信指令に関する事務の共同処理開始）
平成22年 6 月18日	高規格救急車購入 1 台
平成23年 2 月28日	南消防署西分署新築
平成23年 3 月10日	高規格救急車購入 1 台
平成23年 4 月 1 日	機構改革 防災対策課を防災危機管理課として総務部に移管 分署長を主幹級とし、分署に分署長補佐を配置 7 名減員 職員323名

平成24年 1 月 1 日	東三河消防通信指令事務協議会設置
平成24年 3 月 1 日	5 市による消防通信指令に関する事務の共同処理開始
平成24年 3 月 7 日	水槽付消防ポンプ自動車購入 1 台
平成24年 3 月23 日	水槽付消防ポンプ自動車購入 1 台
平成24年 4 月 1 日	機構改革 消防本部消防救急課に企画グループを新設し主幹を配置 通信グループを通信指令課とし課に昇格・南消防署の救命指導官を廃止 2 名減員 職員321名
平成24年10月18日	高規格救急車購入 1 台
平成24年11月12日	小型動力ポンプ付水槽車購入 1 台
平成25年 2 月 6 日	救助工作車Ⅲ型購入 1 台
平成25年 3 月26 日	消防・救急無線をデジタル化
平成25年 4 月 1 日	3 名増員 職員324名
平成25年11月18日	高規格救急車購入 2 台
平成26年 1 月23 日	水槽付消防ポンプ自動車購入 1 台
平成26年 3 月24 日	消防広報車寄贈（愛知県共済生活共同組合） 1 台
平成26年 3 月26 日	拠点機能形成車を国有財産無償使用で配備（総務省消防庁） 1 台
平成26年 4 月 1 日	消防本部消防救急課消防グループに指揮副隊長を配置 3 名増員 職員327名
平成26年11月18日	高規格救急車購入 1 台
平成26年12月 9 日	小型動力ポンプ付水槽車購入 1 台
平成27年 2 月17 日	C A F S 装置付化学消防ポンプ自動車購入 1 台
平成27年 4 月 1 日	機構改革 消防署に副署長、違反是正専任主査を配置 6 名増員 職員333名
平成27年 9 月29 日	高規格救急車購入 1 台
平成28年 4 月 1 日	3 名増員 職員336名
平成28年12月13日	高規格救急車購入 1 台
平成29年 2 月13 日	C A F S 装置付化学消防ポンプ自動車購入 1 台
平成29年 2 月24 日	消防ポンプ自動車購入 1 台
平成29年 4 月 1 日	3 名増員 職員339名
平成29年 4 月 5 日	高規格救急自動車及び積載資機材寄贈（森 みのり 様） 1 台
平成29年12月14日	査察車寄贈（株式会社スミ電機工業所） 1 台
平成30年 3 月20 日	救助工作車Ⅱ型購入 1 台
平成30年 4 月 1 日	機構改革 南消防署に警防専門員（補佐級）、消防署に人材育成主査を配置
平成30年11月16日	高規格救急車購入 2 台
平成31年 1 月31 日	54m級はしご付消防自動車購入 1 台 市民より愛称募集「レッドジラフ 5 4」に命名
平成31年 2 月 5 日	豊橋市消防本部人材育成基本方針の策定

平成31年4月1日	機構改革 消防本部予防課 予防グループを分割し、予防グループと、規制グループを新設
令和元年12月13日	高規格救急車購入 1台
令和元年12月17日	指揮車購入 1台
令和2年3月31日	中型水陸両用車及び搬送車を国有財産無償使用で配備（総務省消防庁）各1台 中型水陸両用車について市民より愛称募集「レッドタートル」に命名
令和2年7月28日	査察車購入 1台
令和2年11月12日	高規格救急車購入 2台
令和2年12月17日	水槽付消防ポンプ自動車(CAFS装置付)購入 1台
令和3年1月26日	広報車購入 1台
令和3年4月1日	機構改革 南消防署 警防専門員（補佐級）及び警防主査を廃止し、 警防司令（主査級）を配置 通信指令課 システム担当専門員を廃止し、主幹（広域通信）を配置 1名減員 職員338名
令和3年12月10日	高規格救急車購入 1台 購入に伴い1台増車（10台→11台）
令和4年4月1日	機構改革 消防救急課 企画グループに救急担当主査及び担当員を配置 2名増員 職員340名
令和4年7月1日	本部日勤救急隊 運用開始 豊橋市消防団組織等改善協議会設置
令和4年10月6日	広報車購入 1台
令和4年11月1日	救急普及啓発車寄贈（山本 晴久 様、山本 生子 様） 1台
令和5年3月20日	水槽付消防ポンプ自動車(CAFS装置付)購入 1台
令和5年7月31日	水上オートバイ寄贈（山本 晴久 様、山本 生子 様） 1台 特殊水難救助隊発足（令和5年9月10日）
令和5年12月18日	ウレタンボート（JET船外機付）購入 1艇
令和6年2月1日	高規格救急自動車及び電動ストレッチャー寄贈（近藤 資浩様） 1台
令和6年3月22日	豊橋市消防団ビジョン策定
令和6年4月1日	機構改革 総務課 総務司令を配置 消防救急課 救急専門員（補佐級）を配置 通信指令課 主幹（広域通信）を廃止 7名増員 職員347名 機動日勤救急隊発足 運用開始
令和6年5月1日	CAFS装置付化学消防ポンプ自動車購入 1台
令和6年6月3日	特殊災害対応指揮車購入 1台
令和6年9月12日	水上オートバイ納入 1台

令和7年2月28日	高規格救急車購入 1台
令和7年3月29日	資機材搬送車購入 1台
令和7年4月1日	機構改革 消防署 違反是正専任主査を廃止 2名増員 職員349名
令和7年10月28日	無人航空機購入 1台
令和7年12月10日	無人航空機 運用開始
令和8年1月27日	高規格救急車購入 1台
令和8年4月1日	他市消防本部との人事交流開始（岡崎市、豊田市） 3名増員 職員352名

歴代消防長

(令和8.4.1)

歴代	氏名	在職期間	
1	北嶋 正己	昭和23年4月1日	昭和32年9月30日
2	浅井 日吉	昭和32年10月7日	昭和41年4月2日
3	佐宗 春男	昭和41年4月2日	昭和43年9月30日
4	西尾 稔	昭和43年10月1日	昭和50年3月25日
5	本多 光好	昭和50年3月25日	昭和53年3月31日
6	中村 剛	昭和53年4月1日	昭和53年9月30日
7	磯原 章	昭和53年10月1日	昭和55年3月31日
8	大村 稔	昭和55年4月1日	昭和58年5月19日
9	竹村 光功	昭和58年5月20日	昭和60年3月31日
10	河合 甫	昭和60年4月1日	昭和63年3月31日
11	佐藤 昌弘	昭和63年4月1日	平成2年3月31日
12	山内 常生	平成2年4月1日	平成4年3月31日
13	白井 公	平成4年4月1日	平成6年3月31日
14	村田 雄二	平成6年4月1日	平成7年3月31日
15	牧野 邦康	平成7年4月1日	平成9年3月31日
16	佐野 阜石	平成9年4月1日	平成12年3月31日
17	太田 敏明	平成12年4月1日	平成14年3月31日
18	近藤 一雄	平成14年4月1日	平成15年3月31日
19	前田 勝利	平成15年4月1日	平成16年3月31日
20	夏目 孝義	平成16年4月1日	平成17年3月31日
21	内田 光彦	平成17年4月1日	平成19年3月31日
22	松井 清貴	平成19年4月1日	平成23年3月31日
23	丸山 弘行	平成23年4月1日	平成25年3月31日
24	山田 淳	平成25年4月1日	平成28年3月31日
25	井土 幹晴	平成28年4月1日	平成30年3月31日
26	土田 弘人	平成30年4月1日	令和2年3月31日
27	小清水 宏和	令和2年4月1日	令和6年3月31日
28	本橋 由行	令和6年4月1日	令和8年3月31日
29	河合 孝始	令和8年4月1日	～